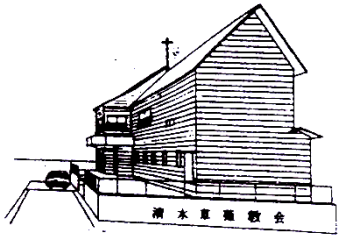
≪先週の聖書から≫“盲人の癒し”の記録は新約聖書で、特別な意味をもっています。ユダヤ人社会では、詩編も律法の書と同じように重んじられ、“聖書に書いてある”というとき詩編も含まれていました。詩編の１４６：８にこんなみ言葉があります。“主は盲人の目を開かれる。主はかがむ者を立たせられる。主は正しい者を愛される”というのです。この箇所をみても、ただ単に、視力がないということにとどまらず、勇気を与えて、魂において、うずくまっていた者を立たせ、必ず正しいものに恵みをもって臨まれるという内容です、正しいものが見える（分かる）ようになるという意味も含んでいたことが分かります。また出エジプト記の４：１１では“見え、見えなくする者はだれか。主なる私である”とあり、見えるということが、霊的なものを意味しているのではなく、両方を意味していることが分かります。旧約聖書には、沢山の奇跡の出来事が記録されていますが、見えるようになるという出来事はありません。視力を回復させられるのは、主でしたから、イエス様が、ユダヤ人にとっても、否定しがたいほど確かに主であったということになります。このことについては、次週の個所以降でも、大きな問題になってゆくことが、読み進めればわかります。心と体が別々に動くということはありません。先週は、“見えるようになりました”という告白を中心に見てみました。生まれつき視力がないのですから、見えるということも、体験していませんし、見えるように願って過ごすという生活をしていたわけでもありません。彼は神様に“ただ導かれた”のです。周囲の人々は寄ってたかって分析をし、彼に質問を浴びせかけています。2節で弟子たちは、罪について真剣にイエス様に質問していますが、8節以降をみてみますと、ユダヤ人たちは罪についても問題にしていません。彼が見えるようになっては困るかのような姿勢です。ところが当の本人には何の迷いやためらいも見られません。彼は隠すこともしていません。見えるようになりました、と答えて元のところに帰って行っています。10節を読みましょう。“どうして目が開いたのか（救われたのか）”と“救われました”という人に問いただすことって、ないでしょうか。平安な人物は、この盲人なのです。情報が交錯する中で人々は疑うことしかできなかったのです。

週　報

２００８年　８月　３１日



伝えよう　救い主を
迎えよう　主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師　村上定幸

教会学校	毎日曜日	午前　9：00
礼拝式	毎日曜日	午前 10：30
	（聖餐式　第一日曜日）	
夕礼拝式	毎日曜日	午後　7：00
エステルの会	毎水曜日	午前 10：30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後　7：00

ホームページ　http://kusanagi.church.jp/

〒424-0885
静岡市清水区草薙杉道３丁目２－２６
☎054-345-4070　E-Mail grace@big.jp